北陸石仏の会々報

第62号
令和2年12月1日発行
編集と発行
北陸石仏の会
（日本石仏協会北陸支部）
代表 平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田1770　尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
（年会費 3000 円）

・利鍵大師と感染症コレラ
・身近な准胝観音
・橘大明神（弟橘媛）
・三面の不空羂索観音
・新湊を散策

利鍵大師と感染症コレラ

尾田 武雄

富山県東部には立山連峰が広がり、山麓には芦峅寺や岩峅寺があり山岳信仰の拠点である宿坊を兼ねた宗教施設があった。立山は女人禁制であったが、江戸時代までは入山を許されない女性のために布橋勧請会が行われ、立山には浄土と地獄が体現できるとされていた。明治期に廃仏毀釈で瓦解したが、信仰は息づいている。立山町岩峅寺の宮路佛事会館脇に、剣を持った弘法大師坐像がある。円盤型で浮彫であり銘に「嘉永二年四月」「施主佐伯藤右エ門」とある。弘法大師は右手首を内に捻りながら胸前で五鈷杵を構え、左手を膝の上にのせて数珠をとる形が多いが、右手に宝剣を持ち、左手に数珠を持つ姿である。宝剣は文殊菩薩の利剣とされ、嵯峨天皇の代に悪疫が流行し、大師が天皇に「般若心経秘鍵」を奏上され、衆生のために剣を以て諸々の災難や疫病を鎮められたお姿であり、厄除け秘鍵大師とも呼ばれている。全国的にも石仏の作例は少なく、宮路の道端にあり台座に「三界萬霊」とあり浮彫の像には「大善院二代目阿□□□之」「□□年一月」「明治廿一年二月九日施主宗右エ門」とある。

石仏の造像の意図は、死者供養が最も多く、次いで境界観による村境、辻などによる場合が多い。また悪霊や疫病を遮る賽の神を安置することもある。たとえば南砺市井波には村境に火炎を背負い、右手に羂索を持ち、左手に宝輪を持つ、全国的にも珍しいを無量力吼菩薩がある。小さい祠のコレラ堂に安置され、コレラを防ぐためのである。死者供養や境界観によるものは、地蔵、聖観音、如意輪観音などの菩薩が多々見られるが、秘鍵大師石仏の場合、疫病などを遮る意図で造像されたと思われる。

安田良栄著「江戸末・明治時代のコレラ禍について」『北陸医史』第二四巻第一号（平成一五年発刊）によると、安政五年、明治十二年、十九年、二十八年に大流行し、死者を出すとともに、社会に様々な影響をもたらした。とされ、宮路の道端にある秘鍵大師石仏などは、時期的に合致するように思われる。

秘鍵大師　立山町岩峅寺宮路佛事会館

身近な准胝観音

平井　一雄

准胝観音は梵名(チュンディー)の写音、准胝仏母、七倶胝仏母とも呼ばれている。真言系では六観音に加えられるが天台系では除かれて不空羂索観音に代わる。両方加えて七観音ともされる。准胝とは訳して「清浄」といい、この菩薩の心性の清浄を現す。仏母は蓮華部諸尊能生の母の義、倶胝は千万または百億に当る。即ち七百億諸仏菩薩の母という尊名を持つ観音とされる。この観音は、主として人間界に交わり一切衆生の惑業を破り、延命、除災、子授けの諸願を叶える。

通例、十八臂像の印相と持物は、胸前の二手が説法印、右の二手以下は施無畏印・剣・数珠・微若布羅迦果（びやくふらかか）・手斧・手鉤・　跋折羅（ばさら）・宝髻（ほうまん）・、左の第二手以下は如意宝幢(にょいほうどう)・開蓮華・水瓶・羂索・輪・螺貝・手賢瓶・経箧(きょうきょう)を取る。

この菩薩の座すところには、一大宝池あり、その水中により抜き出でた紅蓮華上に座し、難陀(なんだ)、跋難陀(ばつなんだ)の二大龍王あり、常に蓮華を受ける。

西国三十三所観音第十一番「上醍醐寺」と秩父三十四所観音第五番「長興寺」の本尊が准胝観音である。各地に見られる写し観音霊場には第十一番准胝観音石仏が見られるが独尊の作仏は少ないという。

私の居住する富山県富山市笹津から近い富山市月岡地区、旧大沢野町、旧大山町、立山町に見られる独尊の石仏を紹介する。

①富山市月岡地区中布目　西光寺墓地の准胝観音石仏

Ａ家墓地、総墓の右隣、像高約70 cmの准胝観音石仏が座す。

十二臂で説法印・施無畏印を持つ。銘文は像上に右書きで「第一」と刻されている。西国三十三所観音第十一番「上醍醐寺」と秩父三十四所観音第五番「長興寺」の本尊が准胝観音であり、「第一」の意味がわからない。

②旧大沢野町八木山の准胝観音

禅定寺前に弘法大師石仏祠堂と並んでいる。

慶応三丁卯年七月建之　惣若連中世話人　石工　善名村六三良

五仏宝冠、十臂、合掌印。蓮華上に座し、難陀龍王・跋難陀龍王が蓮台に手を添えている。

③旧大山町上滝の准胝観音

「橋渡し観音」と呼ばれ常願寺川の渡し場にあったという。

文政十一戊子稔　二月吉■　三界萬霊　若連中　世話人　■兵衛

五仏宝冠、十臂、合掌印。蓮華上に座し、難陀龍王・跋難陀龍王が蓮華に手を添えている。

④立山町岩峅寺墓地の准胝観音

五仏宝冠で八臂の合掌印如意宝幢が高く目だつ。

⑤立山町金剛新　渡辺家の屋敷仏

化仏宝冠で四臂、説法印・施無畏印

各地に准胝観音石仏が散在にしているが千手観音と混同されている場合がある。私は如意宝幢という、なびいている旗のような持物を目印にしている。千手観音は金剛杵を持っているので違いが判る場合がある。

明治増補諸宗佛像圖彙より

②旧大沢野町八木山　禅定寺前

①富山市月岡地区中布目西光寺墓地

③旧大山町上滝

⑤立山町金剛新　渡辺家

④立山町岩峅寺墓地

橘大明神（弟橘媛）

滝本 やすし

橘大明神は、千葉県茂原市にある上総國二宮の橘樹神社の旧称で、日本武尊（倭健命）妃の弟橘媛（弟橘比売命）を主祭神とし、日本武尊と弟橘媛の父の忍山宿禰が相殿として祀られている。

弟橘媛は、日本武尊の東征の際に荒海に身を投じて日本武尊を救ったとされる。千葉県には弟橘媛を祀る神社が多い。また日本武尊を主祭神とする神社に、弟橘媛が相殿として祀られている例もある。

福井県坂井市丸岡町与河の八幡神社境内に、笏谷石製の仏像や神像が並んでいる。これらは六十六部の石仏の一部で、大半は篠岡の笠間神社境内に集められているが、近隣の寺社や路傍にも点在しているものである。

石像群の右から二番目に置かれている女神座像は、光背に「上総／二宮」と刻まれているので、橘樹神社主祭神の弟橘媛である。右手に払子を持っているが、左手は途中で欠落しており、持物が不明である。六十六部の石仏のいくつかに正徳三年（一七一三）銘が刻まれており、この石像も同時に作られたものと考えられる。

与河八幡神社境内の弟橘媛

福井県福井市安原町の曹洞宗金剛山地蔵院の境内に、笏谷石製の石祠が建てられている。地蔵院は、延喜十二年（九一二）頃に槇山の山中において三社神社と共に創建された。天正十二年（一五八四）に長谷川藤五郎秀一が東郷城主となり、現在地へ移転した。当初は真言宗で那蘭陀尼寺と称していたが、江戸時代になり曹洞宗に改宗し地蔵院と称した。本尊は酒解子神（木花開耶姫）の本地仏の十一面観音で、子安観音として信仰されている。三社神社には、京都梅宮大社の他の三柱である酒解神、大若子神、小若子神が祀られている。

石祠は総高107 cmで、河濯堂の左手に建てられている。正面に日月の窓が開けられており、「橘大明神／元和九年（一六二三）癸亥五月吉日／…施主……」と刻まれている。奥壁内面には左から聖観音、十一面観音、不動明王（いずれも座像）が浮彫りされている。奥壁に彫られている三体の仏像は、中央の十一面観音が弟橘媛の本地仏、右の不動明王が日本武尊の本地仏、左の聖観音が忍山宿禰の本地仏である。

地蔵院境内の橘大明神石祠

橘大明神石祠の奥壁に彫られた三体の本地仏

「西国三十三所写し」の三面の不空羂索観音

松井 兵英

平井一雄会長は先の六一号で村の墓地などに単独で置かれた近年作の「第十番三室戸寺『梵篋印二臂』千手観音写し」について発表されました。私は身近な「西国三十三所観音霊場写し」の石仏を巡っています。中には、最初から？ または再配置や移設などで順序や台座の番号が異なっているものがあります。また、わかりにくい像に出会うことがあります。

「第九番 興福寺南円堂 不空羂索観音写し」について

不空羂索観音は藤原氏が独占的に信仰したので一般には広まらなかったそうです。私のような初心者には、准胝観音とも見分けがつきにくいのですが、左手の一つに「羂索」を持つのが特徴といわれます。また「鹿革の衣」とありますので図①、②の腹部にあるのは鹿の顔なのでしょうか。

石仏では細かい印相や持物を表現しにくいためか、三面のものがあって馬頭観音と混同しますが、不空羂索観音は額に「馬の顔」がありません。また「羂索」が見られないものもあるようです。ネット上の「伊勢西国三十三所観音巡礼」には三面の不空羂索観音の図②が載せられています。http://blog.livedoor.jp/isekannon/archives/727434.html を参照。

「諸宗仏像図彙」鹿鳴文庫

図①「仏像画像集」　図②「伊勢西国三十三所観音巡礼」　ともにネットより

ネット上には「大庵寺跡石仏」（奈良県生駒市高山町、江戸時代）として「地元では馬頭観音と呼ばれているが、三面八臂の不空羂索観音像で作例の少ない珍しい作品」とあり、④とよく似た写真が載せられています。http://kawai24.sakura.ne.jp/nara-ikoma-daianjiato.html を参照。

合併後の富山市内でも三面の不空羂索観音に出会うことができます。①萬泉寺跡（江戸時代）は『とやま民俗 日尾民俗誌』には、馬頭観音が二体とされていますが廿一番は不空羂索観音ではないかと思われます。②祇樹寺（文化五年）は萬泉寺跡とよく似ており、富山市埋文センター元所長・古川知明先生は、ともに中川甚右衛門作と推定されています。祇樹寺のほうがやや粗く、萬泉寺跡の美しさに及ばない気がします。③大淵寺門前のものは、細入に二組あるうちの一組で、『細入村史』では江戸時代中頃？ とされていて、風化具合がほどよく優しい感じです。④は各願寺の上段の六角堂周囲にあり、説明には「日露戦役で戦死した兵達を弔うために門信徒が寄進」とあります。

写真①　旧大山町日尾　萬泉寺跡　廿一番

写真③　旧細入村片掛　大淵寺門前　六番

写真②　八尾町深谷　祇樹寺　七番

写真④　婦中町長沢　各願寺六角堂周囲

新湊を散策

尾田　武雄

富山県射水市の新湊にある放生津八幡宮の築山行事（富山県指定民俗文化財）を拝見する機会に、新湊界隈を歩いて石造物なども見て歩いた。

三ケ新には手首で方向を示す元禄袖の道標が珍しいと思った。このようなスタイルは関西に多く見慣れるもので、北陸では管見であるがここだけではないだろうか。石材も瀬戸内産の花崗岩であり、移入されたものであろう。正面に「越後出羽道」側面に「右能登　左京　氷見　古府　伏木　金沢　高岡」「茲安政六年巳未五月　往来安全」とある。四つに分かれ破損しているのが残念である。

また三ケ新の白山社の狛犬は文久二年の、鳥居は天保十四年の銘があり花崗岩製である。東町の神明宮の狛犬は嘉永四年の銘がある。砺波市内には約百五十対の狛犬がいるが在銘年の入る古いものは明治二十九年であり、新湊の北前船などの交易が盛んであったことを物語っている。

自分の命とひきかえに、地域の窮状を救った「漁民義人塚」の脇には、独特の書体で書かれた「南無阿弥陀仏」の名号碑があり、義賢行者のものであり、新湊はある意味において石造物の宝庫である。

新湊三ケの道標

新湊東町の神明宮の狛犬

義賢名号碑

令和３年度の会費を同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。